

米田英智（よねだ・ひでとも）先生



エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社

音楽事業本部 第3音楽事業部 事業部長

1974年 京都生まれ

1999年4月 エイベックス株式会社 入社

2014年8月 エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社

音楽事業本部 第3音楽事業部 事業部長

## 《講義概要》

音楽制作の第一線にて活躍するエイベックス・ミュージック・クリエイティヴ株式会社の米田英智氏が音楽制作の今と題して講義を行った。

まず、講義ではレコード会社での業務について話された。続いて、CDが企画され発売に至るまでの流れを話された。企画内容決定のための編成会議を経て、音源、ミュージック・ビデオ、ジャケットがそれぞれ制作され、発売に至る。編成会議では、曲のテーマや売上予測枚数、予算等が話し合われ、制作が開始される。

楽曲制作の流れは、シンガーソングライターやバンドではない、楽曲を作家から提供されるアーティストの場合を例にとり、制作過程の音源を交えながら紹介した。原曲から編曲家（アレンジャー）によるアレンジが加えられ、曲の全貌が出来上がった後、レコーディング、ミックス、マスタリングが行われ楽曲が出来上がる。原曲に対して、一人の編曲家（アレンジャー）による複数パターンの作成や、複数の編曲家（アレンジャー）によるコンペ形式での編曲が行われる例などが示された。編曲過程において、同一原曲でも編曲家（アレンジャー）によって解釈の違いが生まれる例を取り、原曲と編曲家（アレンジャー）による編曲過程の音源を聞き比べることで、J-POPがどう作り上げられるかを、受講生はより具体的に感じる事ができた。

また、Pro-Tools を使用して各音源の音量調整をし、曲調を変えバランスを取るのがミックス・エンジニアの作業で、実際のミックスデータを画面上に表示するなどして、その作業の一端を知ることができた。

最近では、海外のプロデューサーの手法も取り入れており、トラックやメロディーを複数で共作することで、従来のJ-POPとは異なるアレンジの楽曲も制作している。

最後に、現在の音楽産業はパッケージの売上が減少し、ライブやグッズでの収入に拠る時代となってきた。アーティストの人気が出るためには、皆が好んで聴く曲を作り続けなければならない。そのためには誰に何を届けるか、どうプロモーションしてゆくかを考え続けなければならないと言及し、講義を終えた。

講義中には音楽制作にあたってのこぼれ話もあり、受講生にとっては実際の制作現場の様子を垣間見る絶好の機会となった。

